

請願第5号 「加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的補助制度の創設を求める意見書」の提出に関する請願に対する報告書

請願者 福知山市字天田北本町二区 福天教育会館内
全日本年金者組合 京都・福知山支部 支部長 堀 昭子 氏 ほか1名
紹介議員 紀氏百合子議員、塩見卯太郎議員

1 請願の要旨及び目的

今日の地域社会においては、高齢者がこれまでの経験を活かして社会貢献することが期待されているが、高齢者の中で加齢性難聴者が増えている。難聴のため、会話や外出など、人との交流も少なくなり、コミュニケーション能力の低下から、認知症やうつ病の原因となる可能性も指摘されている。また、難聴のため車の運転も困難となり、災害時に対応が遅れ、大きな事故につながりかねない。

高齢者の難聴対策として補聴器は必需品であるが、高価なため、年金生活の高齢者にとっては負担が大変大きい。

については、補聴器購入の負担を軽減することで、高齢者の社会参加を促し、より豊かな高齢社会を実現するため、加齢性難聴者のための補聴器購入に対する公的補助制度を創設することについて国に求める意見書の提出を求める。

2 請願の議決理由

本委員会は、当請願に関し12月15日に委員会を開催し、慎重に審査した結果、次の結論に達した。

採択とする討論

- ・人生百年と言われる高齢化社会の現在、加齢性難聴は国民的課題となっている。日本は難聴を「障害」のカテゴリーで捉えて、助成対象を障害者手帳のある難聴者に絞り込んでいるが、欧米では難聴を「医療」のカテゴリーで捉え、補助制度があると言われている。年金暮らしの人が購入するには、補聴器はやはりとても高額であり、国民的課題として、加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的補助制度創設について、国に意見書の提出を求める本請願の願意に賛同する。

不採択とする討論

- ・難聴の対策には調査が必要であり、補聴器をつけたらすべてが解決するというわけではない。また、これまでは現役世代が負担しているが、国においても、団塊の世代が75歳以上になり始める2022年から、高齢者の医療費負担を2割にするということが言われているように、高齢者の福祉費の増大という問題を総合的に考える必要がある。したがって、加齢性難聴対策に一足飛びに公的補助を求める本請願の願意には賛同し難い。

採決 賛成少数で不採択

本請願の願意については添いがたく、よって不採択と決した。
以上、報告する。

令和2年12月23日
福知山市議会議長 芦田 眞弘 様

福知山市議会教育厚生委員会
委員長 中嶋 守